

## 多機能タンデムアンプ

### この取扱説明書について

このたびは株エス・イー・シーの多機能タンデムアンプ“B S - T H 5”をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この“B S - T H 5”は、スピーカー付マイクロホンを追加することにより、ヘルメットをかぶっている時に携帯電話が使用でき、同乗者とのタンデム会話や、外部入力端子に接続したMD・CDなどオーディオ機器等も聞くことができます。さらに弊社製別売無線用一体型スイッチボックスを加えるとハンディトランシーバーが使用できる多機能タンデムアンプです。ご使用に際しましては、本機の性能を十分発揮させていただくためこの説明書をよくお読みいただき、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。なお、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

### 注意事項

本機を安全に正しくお使いいただくため、以下注意事項を記載しております。十分にご理解された上でお取り扱いください。

<b>△危険</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
<b>△危険</b>	走行中に、本機の取り付け直しおよび調整はしないでください。転倒・衝突など交通事故の原因になります。走行前に十分な取り付け調整を行ってください。
<b>△危険</b>	コード類は、バイクの運転操作の支障となる取り付け方をしないでください。転倒・衝突など交通事故の原因になります。
<b>△警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
<b>△警告</b>	コード類は必ず固定してください。走行中に風等により不用意に絡まり危険です。
<b>△警告</b>	コード類は、無理に引っ張ったり巻き付けたりしないでください。交通事故の原因になります。
<b>△警告</b>	本機の音量を上げすぎると難聴の原因になったり周囲の音が聞こえにくくなったりして危険です。
<b>△警告</b>	走行中は、本機の操作はしないでください。交通事故の原因になります。
<b>△警告</b>	液漏れした乾電池を使用しないでください。故障・皮膚がかぶれるなどの原因になります。
<b>△警告</b>	本体内部は調整されていますので、改造・調整はしないでください。
<b>△注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。
<b>△注意</b>	強い衝撃を与えないでください。故障・破損の原因となります。
<b>△注意</b>	本機は防水構造ではありません。故障の原因となりますので濡らさないでください。
<b>△注意</b>	プラグやジャックを、濡れた状態で抜き差ししないでください。誤動作の原因となります。乾かしてから抜き差ししてください。
<b>△注意</b>	本機を長時間ご使用にならない場合は乾電池を取り外してください。乾電池の液漏れ等により故障の原因になります。
<b>△注意</b>	本機は緊急通信や非常通信用途には設計されておりませんのでご承知おきください。

### ご注意とお願い

- 本機の音声はモノラル仕様です。
- 携帯電話の機種によってはノイズが発生して、ご使用になれない場合があります。その場合は、携帯電話を本機と離してご使用ください。
- 携帯電話の機種によってはノイズが発生して、MD・CDなどオーディオ機器等がご使用になれない場合があります。その場合は、携帯電話をオーディオ機器等と離してご使用ください。
- 本機の動作に異常を感じたり破損したりした場合は、使用を中止してください。携帯電話の通話内容が本機（またはハンディトランシーバー）を経由して漏れる可能性があります。
- 直射日光の当たる場所や高温になる場所での使用および放置は、変形・変質を招き本製品に悪い影響を与えますので工夫して高温を避けるようにしてください。
- 本機の分解・改造・使用上の誤り等によるトラブル・故障等は、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 性能改善のため、予告なく仕様およびデザイン等を変更する場合があります。

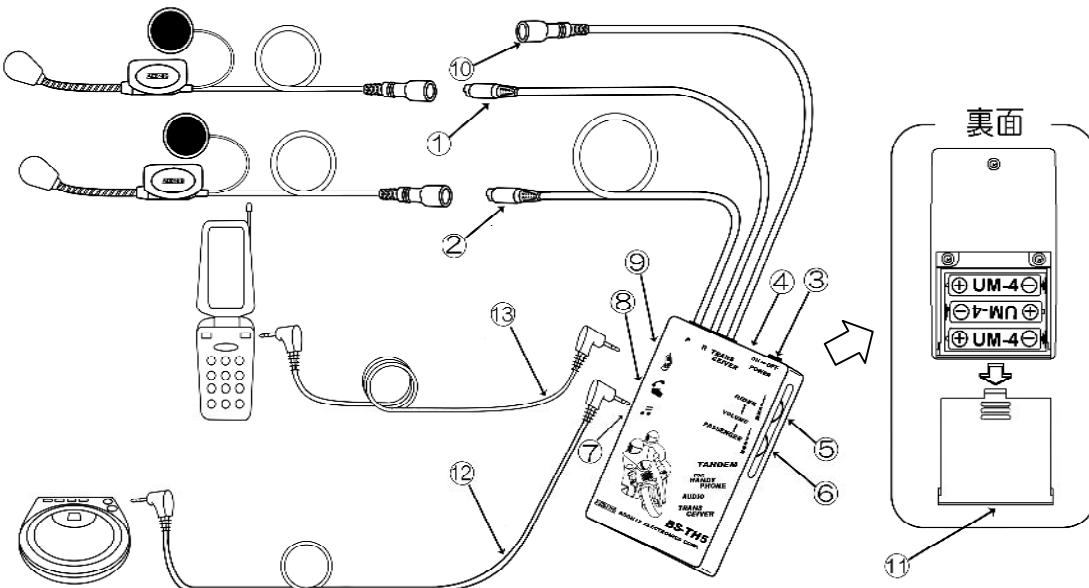
### アフターサービスについて

お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い、ご不審な個所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、または弊社に保証書を添えてお申しつけくださいませ。

### 各部の名称

取り付けを始める前に、同梱品と各部の名称をご確認ください。

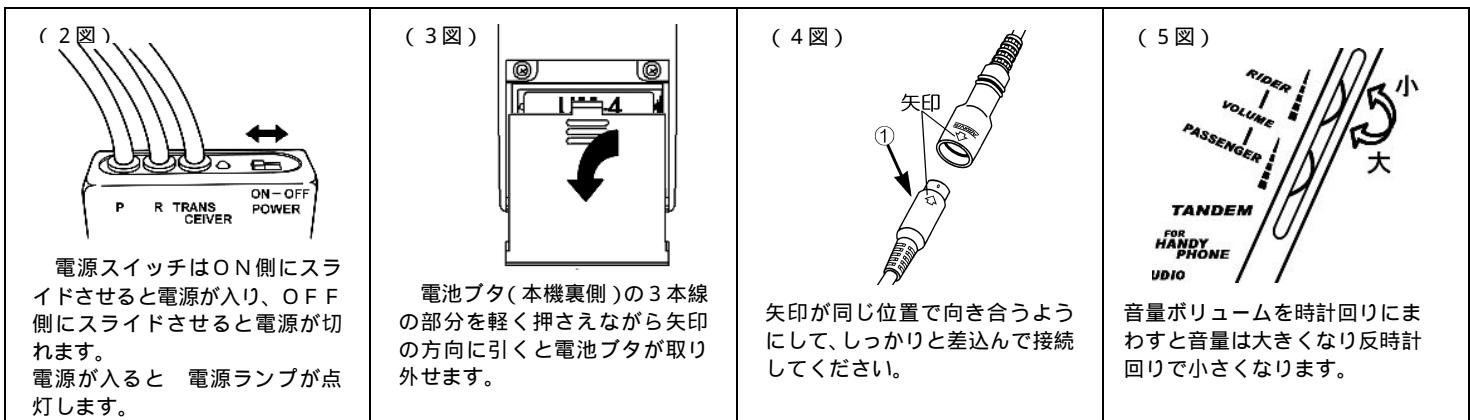
(1図)



運転者用マイク/スピーカー  
中継プラグ(R側)  
同乗者用マイク/スピーカー  
中継プラグ(P側)  
電源スイッチ  
電源ランプ  
運転者用音量ボリューム  
同乗者用音量ボリューム  
外部入力端子  
フックアップスイッチ用ジャック  
携帯電話用ジャック  
スイッチボックス用中継ジャック  
電池プラ

付属品  
オーディオ用接続コード(1m) 1本  
携帯電話用接続コード  
3極用(1m) 1本  
4極用(1m) 1本

(オーディオ機器・携帯電話・スピーカー付マイクロホンおよび乾電池はセットに含まれません)



## 使用方法

### 乗車前の準備と操作方法

#### 通常モード

##### ・タンデム会話をする場合

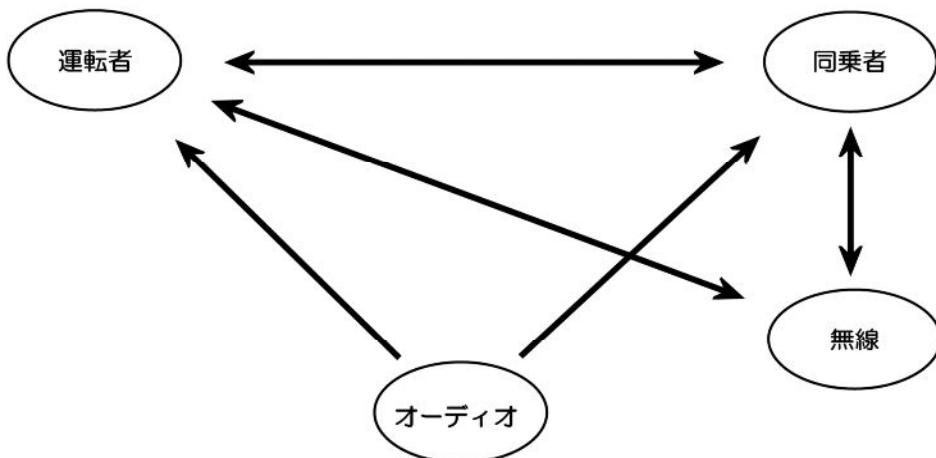
- 1 ) 多機能タンデムアンプ B S - T H 5 (以下本機)の 電源スイッチを OFF (2図)にしてください。裏面の 電池プラをはずして(3図) 電池ケースの底の表示に従い単4形乾電池3本を極性を間違えないように正しく挿入してください。その後、電池プラを取り付けてください。
- 2 ) 電源スイッチを ON になると 電源ランプが点灯します。点灯しない時は、乾電池が消耗しているか極性が間違っていますので調べて挿入しなおしてください。
- 3 ) 電源スイッチを OFF にしてください。
- 4 ) 運転者・同乗者共にスピーカー付マイクロホン (4極ミニDINジャックタイプ)を取り付けたヘルメットをかぶります。
- 5 ) スピーカー付マイクロホンのマイク/スピーカー中継ジャックと の各マイク/スピーカー中継プラグの矢印が同じ位置で向き合うようにして(4図) しっかりと差込んで接続してください。運転者用が「R」側・同乗者用が「P」側になります。
- 6 ) 本機の音量ボリューム (5図) を最小より少し上げた位置にしてください。 運転者用音量ボリュームが「RIDER」側・ 同乗者用音量ボリュームが「PASSENGER」側です。
- 7 ) 本機の 電源スイッチを ON にしてください。
- 8 ) 約10秒間お待ちください。その後、お互いのスピーカー音量を、確認しながら 運転者用 同乗者用各音量ボリュームを操作し最適になるように調整してください。(各音量ボリュームを大きくしそうすると音がひずんだり割れたりします。)
- 9 ) スピーカー付マイクロホンのマイクと口元が接しない程度に近づけてください。 口元とマイクが離れていると会話相手が聞き取りにくくなります。

##### ・外部入力端子に接続したMD・CDなどオーディオ機器等を使う場合

- 1 ) 本機の 電源スイッチを OFF にしてください。
  - 2 ) 本機の 外部入力端子とオーディオ機器等をオーディオ機器等の取扱説明書に従って オーディオ用接続コードで接続してください。オーディオ機器のイヤホンジャックの径が3.5mmステレオタイプに使用できます。
  - 3 ) オーディオ機器等の音量ボリュームを最小より少し上げた位置にしてください。
  - 4 ) 本機の 電源スイッチを ON にしてください。
  - 5 ) 約10秒間お待ちください。その後、スピーカー付マイクロホンのスピーカーより音が聴こえることを確認してください。聴こえない場合は再度、オーディオ機器等の取扱説明書をよく読んで問題の解決にあたってください。また、本機の電池が消耗していれば新しい電池と交換してください。
  - 6 ) オーディオ機器等の音量をオーディオ機器等の音量ボリュームで調整し最適になるようにしてください。
  - 7 ) 同乗者も聴く場合は、オーディオ機器等の音量はオーディオ機器等の音量ボリュームで調整しますので、個々には調整できません。運転者は同乗者と相談の上オーディオ機器等の音量調整を行ってください。
- 注) 各スピーカー付マイクロホンのスピーカーより聞こえる音量は、本機の 運転者用音量ボリューム・ 同乗者用音量ボリュームで調整します。

##### ・通常モードの音声・音の流れ

#### (6図)



#### 携帯モード

##### ・携帯電話を使用する場合

- 1 ) 着信した電話を取るために、携帯電話のイヤホンマイク端子を使用した場合の設定を携帯電話の取扱説明書に従って行ってください。
- 2 ) 携帯電話のイヤホンマイク端子に 携帯電話用接続コードのL型プラグを最後まで確実に差し込んでください。
- 3 ) 本機の 携帯電話用ジャックに 携帯電話用接続コードのL型プラグを最後まで確実に差し込んでください。
- 4 ) 本機の 電源スイッチを ON にしてください。
- 5 ) 運転者の携帯電話へ電話をかけてもらい(このとき、本機は携帯モードになります) スピーカー付マイクロホンのスピーカーより聴こえてくる携帯電話の音量を確認し、最適になるように携帯電話の音量調整をしてください。音量を大きくしそうすると音がひずんだり割れたりし、周りの音も聞こえにくくなります。その時、会話の音量だけでなく着信音の調整も忘れずに行ってください。

#### ・携帯モードについて

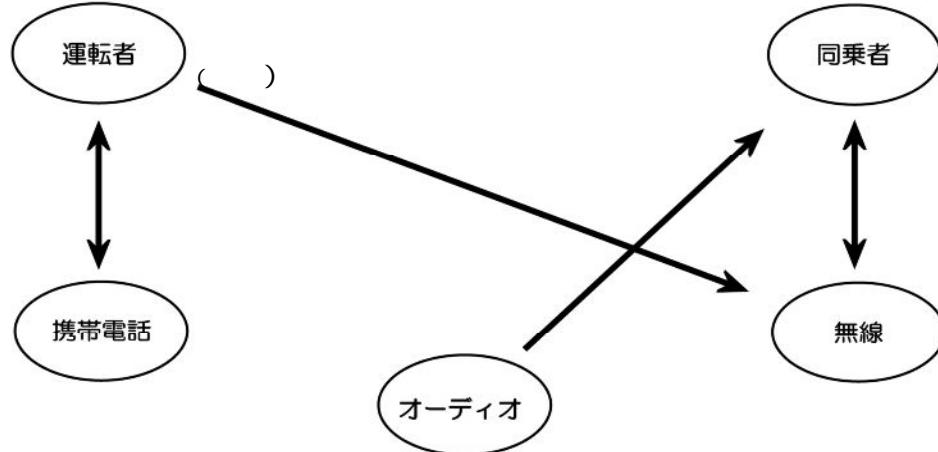
携帯モードとは、かかってきた電話をとることができ、相手と通話を開始することができる状態です。

- イ) タンデム会話やオーディオ機器等を聞くことはできません。
  - ロ) 電源スイッチをONにすると携帯モードが約10秒間続いた後、通常モードになります。故障ではありません。
  - ハ) 携帯電話用ジャックに信号(呼び出し音・相手の声)が入ると携帯モードに切り換わります。
  - 二) 携帯電話用ジャックの信号(相手の声)が途切れると約10秒経過した後、通常モードに戻ります。
- 携帯電話の相手と通話中であっても、相手が約10秒間黙っていれば通常モードに戻り運転者の声が同乗者に聞こえてしまいます。不都合がある場合は、合間に返事などしてもらいテンポの良い通話をしてください。
- ホ) 同乗者は運転者にかかってきた電話に妨げられることなくオーディオ機器等を聞くことができます。

注) 携帯電話用接続コードは、付属品として3極用と4極用を各1本同梱しております。携帯電話のイヤホンマイク端子に合わせてご使用ください。

#### ・携帯モードの音声・音の流れ

(7図)



#### ご注意

無線通信中に携帯モードに切り換わった場合、携帯電話の相手と通話を開始すると運転者の声はハンディトランシーバーを通して送信されますので、無線通信を終了してから通話を開始してください。

乗車前の準備、操作方法の確認が終わりましたら運転の支障にならないように配線をしてご使用ください。

#### フックアップスイッチ用ジャックについて

携帯電話の機能を利用して手元操作で携帯電話の着信をしたい場合に フックアップスイッチ用ジャックを利用します。

- 1) ご使用になっている携帯電話の取扱説明書をお読みいただき、スイッチ付イヤホンマイクに対応していることを確認してください。対応していない場合は、フックアップスイッチ用ジャックを利用しての操作はできません。携帯電話本体で操作してください。
- 2) 携帯電話の取扱説明書を良くお読みいただき、次の設定を行ってください。着信した時に着信音が携帯電話付属のスイッチ付イヤホンマイクに聞こえるようにし、自動着信機能を解除してください。
- 3) 上記「乗車前の準備と操作方法」に従って準備ができましたら、運転およびハンドル操作の邪魔にならない場所に、弊社製別売フックアップスイッチ BS-12を取り付けてください。
- 4) 本機の フックアップスイッチ用ジャックに、BS-12のプラグを最後まで確実に差し込んでください。
- 5) 携帯電話に電話をかけてもらい、フックアップスイッチを押すと着信した電話が取れることを確認してください。
- 6) 携帯電話の機種により機種固有の設定がありフックアップスイッチを押すことにより、スイッチ付イヤホンマイクの機能を利用できる場合があります。

#### スイッチボックス用中継ジャック（無線通信用）を使う場合

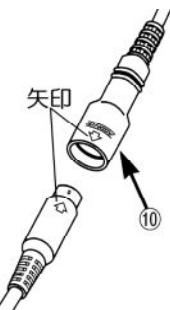
- 1) 弊社製別売無線用一体型スイッチボックス（以下スイッチボックス）を別途お求めいただきスイッチボックスの取扱説明書に沿って取り付けをします。
- 2) 本機のスイッチボックス用中継ジャックとスイッチボックスのマイク／スピーカー中継プラグの矢印が同じ位置で向き合う（8図）ようにして、しっかりと差込んで接続してください。
- 3) スイッチボックスの送受信切換スイッチが上側になっていることを確認し、スイッチボックスのトランシーバー接続プラグをご使用になるハンディトランシーバーに接続します。
- 4) スイッチボックスのスピーカー音量切換スイッチ（9図）を下側にした状態で、接続したハンディトランシーバーの音量ボリュームを最適の音量になるよう調整してください。スピーカー音量切換スイッチを上側にするとスピーカーの音量が大きくなります。使用状況に応じて切り換えてご使用ください。
- 5) スイッチボックスの送受信切換（PTT）スイッチ（10図）は、上側が受信状態です。送信する場合は、送受信切換（PTT）スイッチを下側に切り換えてください。
- 6) スイッチボックスのマイクゲイン切換スイッチ（11図）は、上側にするとハイレベル（高い）になり下側にするとローレベル（低い）になります。通常はローレベルで交信するようにレベルの設定を行い、運用状況により使い分けてください。
- 7) 無線通信はスイッチボックスの取扱説明書に沿ってご使用ください。
- 8) 同乗者とタンデム会話中に送信・受信もでき、無線相手と三者で会話ができます。

ご注意1) 同乗者とタンデム会話中に、スイッチボックスの送受信切換スイッチが不用意に作動した場合、会話内容がハンディトランシーバーを通して送信されます。

ご注意2) 携帯電話で通話中に、スイッチボックスの送受信切換スイッチが不用意に作動した場合、運転者・同乗者の声がハンディトランシーバーを通して送信されます。

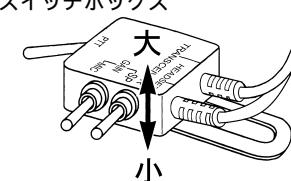
ご注意3) ハンディトランシーバーを使用しアマチュア無線（免許が必要）を楽しむ場合は、法令に沿った運用を行ってください。

(8図)



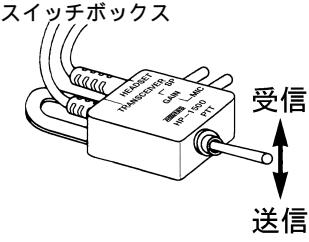
矢印が同じ位置で向き合うようにして、しっかりと差込んで接続してください。

(9図)



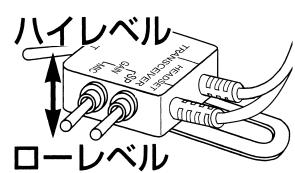
スピーカー音量切換スイッチを上側にするとスピーカーの音量が大きくなり、下側にすると小さくなります。

(10図)



送受信切換(PTT)スイッチは上側が受信状態です。送信する場合は、下側に切り換え、終われば上側に戻します。

(11図)



マイクゲイン(音量)切換スイッチを上側にするとハイレベル(高い)になります。下側にするとローレベル(低い)になります。

**ご注意** 本機のスイッチボックス用中継ジャックと運転者用マイク/スピーカー中継プラグ(R側)または同乗者用マイク/スピーカー中継プラグ(P側)を接続しないでください。故障の原因となります。誤って接続した場合、マイク/スピーカーより警報音が鳴ります。

### 乾電池の交換時期他

- 電源ランプが暗くなりましたら新しい乾電池と交換してください。会話をしている時やオーディオ機器等を使っている時に音がひずんだり小さくなったりする場合も同様に新しい乾電池と交換してください。
- 使用時間の目安は、連続使用の場合で約30時間です。(新品のアルカリ乾電池を使用の場合)  
環境・使用条件等により使用時間は異なります。

このBS-TH5は、下記の弊社製別売スピーカー付マイクロホンと組み合わせてご使用ください。

フローティングマイクロホン(特許申請中)を搭載した HS - 15F (税込価格¥10,290)  
2スピーカー付フローティングマイクロホン(特許申請中)を搭載した HS - 15FW (税込価格¥12,390)

または

スタンダードタイプマイクロホンを使用した HS - 10 (税込価格¥7,140)

別売オプション(下記商品)をご用意いたしております。カタログをご覧のうえ店頭にてお求めください。

・携帯電話の機能を利用し手元操作で携帯電話の着信をしたい場合 携帯電話用フックアップスイッチ BS - 12 (税込価格¥1,890)

・フローティングマイクロホン(特許申請中)を使用し無線通信をしたい場合 無線用一体型スイッチボックス BS - S15 (税込価格¥10,500)  
(HP-TS50F、HS-15F用)

・スタンダードタイプマイクロホンを使用し無線通信をしたい場合 無線用一体型スイッチボックス BS - S10 (税込価格¥10,500)  
(HP-TS50、HS-10用)

### BS-TH5仕様

- 運転者用マイク/スピーカー中継プラグ付コード長 … 約0.8m
- 同乗者用マイク/スピーカー中継プラグ付コード長 … 約1m
- 携帯電話用ジャック ……………… 2.5mm 4極ジャック
- 外部入力端子 ……………… 3.5mm ステレオジャック
- フックアップスイッチ用ジャック ……………… 3.5mm
- スイッチボックス用中継ジャックのコード長 ……………… 約27cm
- 電源…………… 単4形乾電池3本
- 消費電流…………… 最大出力時75mA
- アンプ部形状…………… 100(H) × 58(W) × 17(D)  
(突起部含まず)
- 重量(乾電池含まず)…………… 約130g